

筑波山神社林内の植樹地調査(経過報告)

2006年より開始された筑波山神社林内のこれまでの植樹地の土壌調査を行いました。植樹した土地が豊かになっているかどうか調べて、今後の植樹活動に活かすためです。調査は、10月9日、10月17日、10月29日と3回入山して行われました。採取した調査結果は、現場で調査対象物を採取された大東文化大学准教授・橋本みのり先生の手により分析されて、来年結果が出る予定です。なお、この活動は公益財団法人三五自然共生基金の助成金を受けて行っております。



採取する橋本みのり先生



落ち葉や小動物の選別作業

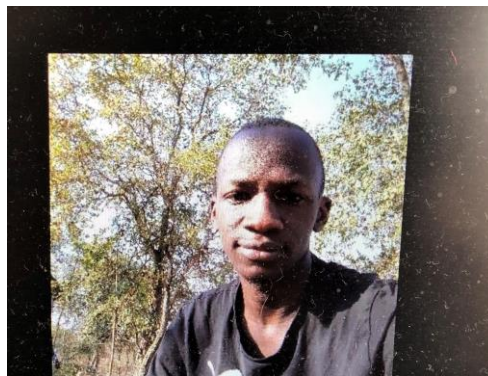


採取物の選別作業

ケニア国ナイロビ近郊での中学生による植樹活動(経過報告)



ズーム上の藤原先生



ズーム上の Mr.dancun



英文、和文両方のテキスト



ズーム上の現地の様子

ナイロビ近郊のライラ教育センターの中学生は、植樹活動を通して、自分達が直面する地球温暖化や気候変動を学び、SDGsの活動にも繋げようと12月4日に植樹祭を開催する予定でした。指導にあたるのは、「宮脇方式」の森づくりの手法でナイロビ周辺で10年以上植樹活動に尽力されている、当会理事で横浜国立大学名誉教授・藤原一繪先生です。植樹事前準備のため、渡航予定だった藤原先生は、ケニアの感染状況から渡航できず、現地責任者・Mr.Duncan Mutiso Chalo氏とのズームによる準備指導となりました。Mr.Duncanは現場を移動しながら、造成用の土の搬入などを伝えてくれ、日本サイドも、植樹祭で配布する学習用のテキスト(写真右)などの準備も整えましたが、ケニアはコロナの状態がレベル4まで下がらず、日本でも渡航を控えるようにとの勧告が出ており、藤原先生も渡航を断念、来春に改めて植樹祭を行う事となりました。

このプロジェクトは国土緑化推進機構の助成金交付を受けて行っておりますが、同機構も状況をご理解下さっています。

「宮脇昭先生を偲ぶ会」が開催されます。

- 主催： 宮脇昭先生を偲ぶ会実行委員会
- 日時： 令和4年1月29日（土）
開会 12時30分（受付開始12時、終了15時頃）
- 場所： レンブラントホテル厚木
小田急線「本厚木」駅下車 北口より徒歩5分
住所： 神奈川県厚木市中町2-13-1
(地図添付★)

https://rembrandt-group.com/atsugi_info/access_a

- 会費： 1万2千円 *お食事代込み
- *記念品込み（最新刊『森をつくろう！』6,820円、DVD・資料・日本の植生図〔現存・潜在自然〕非売品）
- *会費は、添付の要領で★、予めお支払いいただければ幸いです。
当日ご持参の場合は、受付にお渡し下さい。
- ◎当日は、平服でお越し下さい。
- ◎ご供花、ご供物の儀は固くご辞退申し上げます。
- ◎準備の都合上、お申し込みは1月20日までにお願い申し上げます。

申込先 藤原書店 山崎優子
MAIL: yamazaki@fujiwarashoten.co.jp
TEL: 03-5272-0301
FAX: 03-5272-0450

圃場内にあずまやが完成しました！

茨城県湖沼環境税を活用した「茨城県元気もりづくり」助成金の交付を受け、圃場内に「あずまや」が完成しました。当会理事で建設業に携わる草間留次郎さんの多大なるご協力を中心に有志も協力して作業は終了、12月16日、近くのふれあい保育園やつくば市のチェロススポーツ保育園の園児達を招いて、お披露目会を開催しました。園児や近隣の人達の集う場所として、また圃場で作業をするスタッフの休憩所として活躍すると思います。園児たちからは、サツマイモ掘り時に出るツルを干してつくったクリスマスリースをプレゼントされました！圃場に落ちるシラカシのどんぐり（水に浸して虫を除去したもの）をプレゼント、園で育てて来春針のような芽が出たら、園児たちも育苗に関心を持ってくれることでしょう。



ジャガイモ掘り、サツマイモ掘り、虫取り、どんぐり拾い、水遊び、かけっこ、石ころ拾いなど、園児たちはこの広場で沢山遊びました。来年は合同で、スポーツに特化したお楽しみ会ができるといいですねと話しています。自然の中で思いっきり体を動かし、誰とでも楽しく過ごす、幼児に必要な教育です。



市のパネルディスカッションにパネラーとして登壇の石村章子理事長（茨城新聞 12月17日）

当会のあるつくばみらい市は、つくばエクスプレスの開通により、急速に人口が増えている街です。特に若い層の移入が多く、未来を拓く子供達への市の配慮に気づかされます。市民と共に街づくりをしていこうという市の姿勢、当会も協力させて頂けたらと思っています。

→市の広報誌に掲載されました



NHK ラジオ第一石丸謙二郎の「山カフェ」に出演

石村章子理事長は、11月13日、「山カフェ」の出演依頼を受け、ラジオで活動を紹介しました。次のような内容です。
マスター:石丸謙二郎氏 アナウンサー:山本志保さん ゲスト:石村章子(NPO 法人地球の緑を育てる会理事長)

11月13日、全国の山の朝はいかに!? 『山からおはよ〜う!』

山本 けさは日本百名山の1つで茨城県つくば市にある筑波山(つくばさん)をフィールドに森づくりに取り組んでいる方からの『おはよう』です。

石丸 僕、筑波山は3回登っているんですよ。下で御朱印をポンとハンコを押してくれたり、書いたりしてくれる所があるんですよ。御朱印帳に書いてもらって、山をトコトコ登って山頂に行きますと、そこにも宮司さんがいて、そこでも御朱印をポンとやったださる。1日2回もらえるんですが、山頂でよくよく見たら「麓(ふもと)にいた人と同じ人だな……」と。

山本 あれ? どうやって移動されたんですか?

石丸 あそこはロープウエーがあるんです。先回りされちゃってる(笑)。

山本 そんなマスターも楽しまれた筑波山。その森のほとんどは天然林です。でも一部にスギとヒノキの植林もありますが、手入れが行き届かず荒れてしまっている所もあるんです。15年前から山を管理する筑波山神社と市民団体が協力しまして、森をよみがえらせる活動を進めてきました。木を植えたり間伐をしたり、森の手入れを続けていらっしやいます。その植樹活動、みなさまもよく知っている“あるもの”が使われているそうなんです。ヒントは森によく落ちているもの!

石丸 森によく落ちているもの……落ち葉?

山本 う〜ん……童謡にもでてくる「おいけにはまって さあたいへん」な感じですね。

石丸 ドジョウかな? あれ違ったっけ?

山本 为什么呢かね? 早速伺いましょう。

筑波山で森林の再生に取り組んでいる「NPO 法人地球の緑を育てる会」の石村章子さんとお電話がつながっています。

石丸 おはようございます!

石村 おはようございます!

石丸 石村さん、石丸です(笑)。

今どちらにおられるんですか?

石村 私はつくば市の南側にある、つくばみらい市という所におります。

石丸 そこから筑波山はよく見えるんですか?

石村 きょうはお天気がいいので筑波山も見えますし、富士山も見えます。西にほうに回れば男体山(なんたいさん)も見えますし、関東平野をぐるりと取り囲む山のりょう線が見えます。

石丸 冬型の気圧配置がゆるんで、太平洋側は青空が広がってますので、それはそれはいい日です。

石村 これから春になるまで毎日すばらしい景色を堪能することができます!

山本 うらやましい!

石丸 石村さんたちが筑波山の森を再生するために使っている“あるもの”ってなんですか?

石村 今あちこちに落ちているドングリです!

石丸 ドングリ! それが生産に関係ある?

石村 ポットでもプランターでもいいんですけど、ドングリを集めて土にまきます。そうするとそれがたくさん発芽してきます。それが“苗”になるんです。苗を筑波山に植えていくことで森の再生を行っております。

石丸 そうか、ドングリってよく考えたら実か……。

山本 初歩的な質問ですけど、どういう木が植えられているんでしょうか?

石村 関東一円どこにでも見受けられる、シラカシ・スダジイ・タブノキ・ヤマザクラとか…、どこでもよく見られる木のドングリを集めてきて、まいて苗にするんです。

石丸 ドングリってクリの仲間だけとっていたけど、そうじゃないんだね。

山本 明治時代に一部が伐採されたことがあるそうですね。

石村 明治時代というか、日本の多くの山々は今の時代と違って燃料として樹木を伐採してきましたので、明治・大正・昭和のころは樹木の伐採が盛んで、ほとんどの日本の山々ははげ山に近い状態だったそうです。“植林しなくては大変だ”ということで、林野庁主導のもと、スギ・ヒノキの植林が始まり、今見つけられる山々の多くは、その当時植えられたものです。離れたところから見るとクリスマスツリーのように先がとんがっている木が整列して植えてある山々があると思うんですが、それがスギ・ヒノキ林です。

山本 きちんと手入れをしないと荒れてしまうことがあると思うんですが、荒れるとどんな状態になっちゃうんですか?

石丸 スギ・ヒノキ林は住宅用の木材とか、経済を目的として植えていることが多いです。きちんと枝打ちや草刈りや間伐をしたりして手入れをしないと、立派な木材にはなっていない。それをしないでいると、弱々しいままの形で、地面を保水する能力も無くなりますし、大雨が降ったら流れてしまうような非常に災害に弱い森になってしまう危険性があります。

石丸 ドングリから育った広葉樹を植えると、どういうふうになるんですか?

石丸 先生のご指導を得てこのような再生をさせていただいているんですが、スギ・ヒノキの成長がよくないものを間伐しま

して、その間にしっかりと太陽の光を取り入れて、そこに私どもが育てたドングリから作った苗を植えることで、健全に残っている針葉樹も植えた広葉樹とともに発育して針広混交林(しんこうこんこうりん)といいますが、針葉樹と広葉樹も元気な森に戻していくということ。

石丸 twitter にアップされている写真を拝見しているんですが、2005 年の写真と 10 年後の写真があります。最初は細いスギが密集した状態ですが、10 年後はその中に広葉樹が広がって緑が増えてますね。

石村 今ではこれが植えたものだと誰も思わないような、人の背丈の3倍くらいの高さの広葉樹になっています。

石丸 僕らが山に登るときにこういう森を見ますね。

石村 見受けられますし、もともと手入れが行き届かなかった森とはまったく違った姿に戻ってきます。

山本 広葉樹と針葉樹が混ざると具体的にどういう“いいこと”があるんですか？

石村 筑波山は水源の森です。近くには霞ヶ浦がありますし、水源の森として大変重要な役目を果たしていると思います。しかし、やっぱり森が荒れたりするとその※地力(ちりよく)も弱りますので、水源・防災に強い森づくりのためにこのような活動をさせていただいております。

※作物などを生産する土壌の能力

山本 広葉樹を加えることによって、水を蓄える力も高まるということなんですね。

石村さんたちの活動はドングリを植えて、筑波山の森を豊かにしていこう.....ということですが、ほかの場所でもできる試みなんですか？

石村 もちろん、どこでもできます。平地でもスギ・ヒノキがある所で、足元にアズマネザサがびっしりはびこってしまっ、荒れている所が多くあるんですが、こういう所には重機は入れられず、全部人力で行いますので、誰でもどこでもできることです。ぜひみなさん取り組んでみてください。(※許可が必要になります)

山本 全国でも働きかけてやってらっしゃるんですか？

石村 そうできれば一番いいんですけど、なかなかそこまでは広まっていない状態だと思います。これをお聴きのみなさまの中で、「じゃあやってみよう」という方がいたら、ぜひ参考にしてください。森の中に入ってアズマネザサを処分するときは、それも森を守るための材料として使えます。間伐した丸太は土留めに使い、葉っぱは樹木を植えたあとの“マルチング”といって、苗を保護する材料として使えますのでムダになるものが1つもないんです。

石丸 石村さんがドングリの苗を植えようとしたきっかけはなんだったんですか？

石村 きっかけは私どもを指導してくださっていた、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生という方のアドバイスです。「落ちていっているドングリは地球資源だよ」ということばに感動しまして、そこから苗作りを始めたのがきっかけです。

山本 植物生態学者の宮脇昭先生、ことし7月に亡くなられましたよね。

石村 本当に残念なことに、ことし 93 歳で亡くなられましたが、「生態学に基づいた森づくり」ということを一生続けてやっておられました。特に先生の足跡として大きいのが、1980 年代から 10 年かけて日本国中くまなく歩き、『どういふ樹木がその土地に生えているか?』という植生を調べ上げられて、『日本植生誌』全 10 巻にまとめられたことです。それがドングリの植樹の基本になると思います。

豊かな森をつくるために

石丸 僕らが豊かな森をつくるためにできることはなんでしょうか？

石村 今でしたら、ちょうどたくさんドングリが落ちていまして、そのドングリを集めてプランターに植えて発芽させてみる.....。小さな小さな針のような発芽ですけど、それを楽しむだけでも、とてもとても環境問題に対する意識づけの1歩になると思いますし、行楽シーズンですので、山々を歩いてどんな樹木があるか調べたり、ただ木肌を眺めたり葉っぱを見たりするだけでもまた違うものがあると思います。

山本 確かにドングリを育てていたら、子どもたちにも自然の大切さを伝えていけますよね。

石村 お父さんお母さんが一緒になってその発芽を喜んで観察してあげたら、お子さんたちもとてもいい勉強になると思います。

石丸 そうですね。僕、ドングリは食べるもんだと思っていた(笑)。

石村 シイの実実は昔食べていましたね。筑波山には樹齢 400 年の古いシイの木がたくさんあります。

石丸 石村さんありがとうございます。僕も土に植えてみます！

石村 ぜひぜひ育ててみてください！

身近に落ちていっているドングリが森林再生に貢献するとは驚きですね。みなさんもお家で育ててみてはいかがでしょう？

以上「NHK らじる★らじる」より